

待鳳だより

(特別号)

平成29年度 後期アンケート結果のお知らせ

春の訪れを感じる季節になってまいりましたが、まだまだ冷たい風が寒さを感じさせます。22日には卒業式を迎え、59名の子どもたちが待鳳小学校を巣立っていきます。子どもたちの成長した姿をあらゆる場面で見ることができ、大変嬉しく思っております。

さて平成29年度末を迎えるにあたり、後期の学校アンケートを実施いたしました。

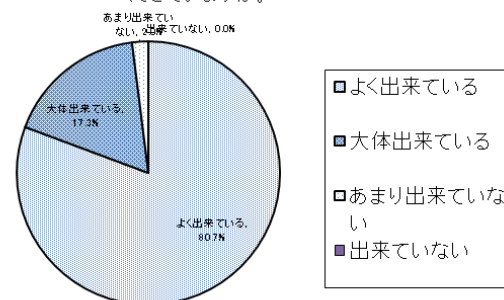
アンケートでは、前回に引き続き、児童・保護者・教職員がそれぞれ自己を振り返る機会として実施させていただきました。今回も多数のご回答をいただきありがとうございました。アンケート結果から、前期からの変容や来年度に向けての課題をもち、待鳳小学校の児童をよりよく育てていけるよう教職員一丸となって取組を進めてまいります。

【学校アンケート結果より】

○友達を大切にする

「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせて「出来ている」というプラス評価として見ると、児童自身は、「友達をいじめたり仲間はずれをしたりせず、友達と仲良くできている。」98.0%と、前期よりさらに高い自己評価でした。共通項目で、教職員の「出来ている」の結

友達をいじめたり仲間はずれにしたりせず、友達と仲よくできていますか。



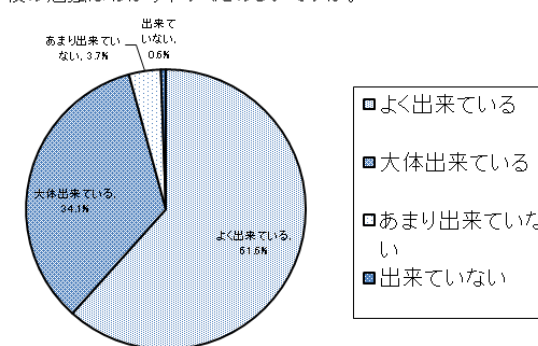
果では、前期と同じく100%、保護者の方も、97.3%と前期よりさらに高い結果でした。いじめや仲間はずれなど、人を大切にしない行為については、児童自身も、保護者も、教職員も、許さないという意識がさらに強くなっていることが分かりました。これからも、みんなが仲良くできる、いじめや仲間外れのない、人を大切にする学校を目指し取り組んでいきます。

○学習面

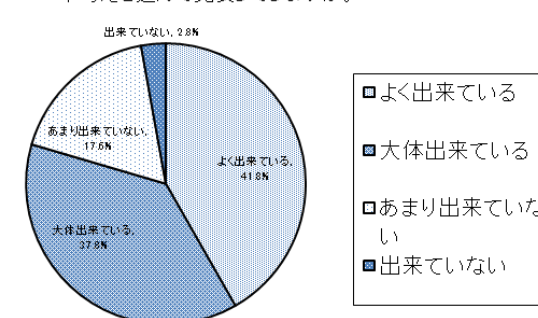
学習では、児童の「学校の勉強は分かりやすく楽しい。」95.7%、教職員の「しっかりと教材研究を行い、分かりやすく楽しい授業づくりを進めている。」94.1%、保護者の「ご家庭では、参観日や担任からの連絡などで、子どもの学習理解の状況を知り、励ましやアドバイスをすることができている。」87.6%という高い評価でした。

前期と比べ、後期で大きく伸びたのは、この「学校の勉強は分かりやすく楽しい。」でした。同じく学習について伸びたのが、教職員の「子どもが自分の思いや考えをしっかり話せるように、場の設定や授業展開、教材などの工夫をしていますか。」では、前期の85.7%から100%に上がりました。保護者の「ご家庭では、子どもの前で話をするときに、正しい言葉づかいで親の気持ちを伝えることができますか。」では、前期の66.7%から71.5%に上がりました。授業の工夫と共に、多くの児童が

学校の勉強はわかりやすくてのいいですか。



じゅぎょう中、グループやクラスの中で、自分のおもいや考えを進んで発表しますか。



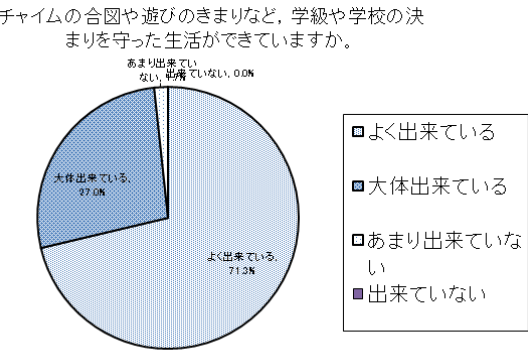
意欲的に学習に臨めていることが読み取れます。特に自分の思いや考えを伝え合うことの必要性を強く感じるとともに、実践していることがうかがえます。学校は学習する場であり、児童自身がその自覚を持って学習していけるよう場の設定など工夫を重ねてまいります。

前期から後期にかけて、学習での変容は、児童が学習を楽しく学べるように、教員がさらに工夫をしてきたこと、言葉での正しいコミュニケーションが図れるように家庭のご協力を得られたことが大きいと考えます。

また、前期からの変容では、教職員の「休み時間や放課後に、子どもと遊んだり、子どもと話をしたりすることができていますか。」では、前期 77.6%から 82.3%に上がりました。休み時間の児童との関わりを大事にすることで、より児童理解を深めて、関係づくりに生かしていくことができました。

○規範意識

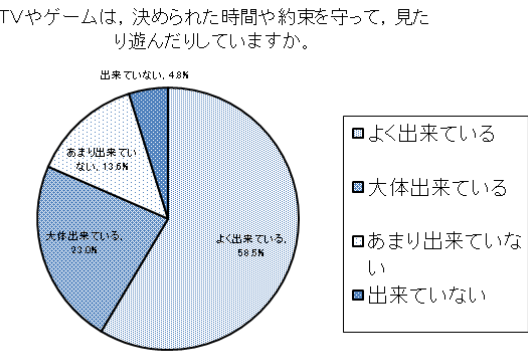
児童は、「チャイムの合図や遊びのきまりなど、学級や学校のきまりを守った生活ができている。」前期 96.5%から 98.3%に上がり、共通項目で保護者の方、教職員も約 95%という高い結果でした。学校での児童の様子を見えても、素直にきまりを守ろうとしている姿が随所に見られました。



○基本的な生活習慣

児童は「自分から『おはようございます』『こんにちは』『さようなら』『ありがとう』『お願いします』などのあいさつができている。」94.6%という自己評価でした。共通項目で保護者の方は 93.8%, 教職員は 94.1%という評価でした。

また、「TV やゲームは、決められた時間や約束を守って、見たり遊んだりして

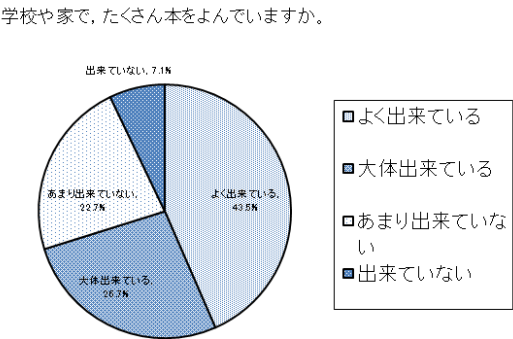


いますか。」では、児童は 81.5%でした。保護者の「ご家庭では、子どもが TV を見たりゲームをしたりする時間を決め、それを守るように声かけをしていますか。」では、前期の 63.8%から 70.6%に上がりました。教職員の「生活点検表などをもとにして、TV 視聴や家での遊びについて、指導や個別の働きかけができていますか。」では、前期の 61.6%から 82.4%に上がりました。学校と家庭で共通に働きかけることが、児童の生活が向上していく、結果につながったと考えます。

○読書 課題

前期のアンケート結果で低かったのが、児童・教職員・保護者とも読書でした。後期の結果では、教職員の「読書の楽しさを伝えたり、意図的に読書の時間を設けたりするなど、読書に親しむような指導を進めている。」は 84.6%から 88.2%に上がりましたが、児童のアンケート結果では「学校や家で、たくさん本を読んでいる。」が 70.2 %、保護者の「ご家庭では、子どもと一緒に読書したり、図書館へ行ったりするなど、子どもが読書を楽しむ環境づくりに協力している。」が 42.4 %でした。

児童の学力向上や成長にとって読書活動は非常に重要です。学校では、継続して、読書指導や調べ学習など図書を利用する指導を積極的に行い、児童がより本にふれる機会をつくっています。



今年度のアンケート結果では、前期、後期ともに、友達と仲良くする、きまりを守る、挨拶するなど、大人が常に児童に働きかけていることについては、児童の回答もよい結果でした。そして、学校と家庭が同じ目標をもって待鳳小学校の児童を育てていくことで、少しずつ児童の成長につながってきていることが感じられました。これからも、待鳳小学校の児童を、学校だけでなく、家庭も地域も、共通の目指す姿をもって育てていくことが、よりよい成長につながると考えます。今後とも、待鳳小学校の教育活動にご支援ご協力いただきますよう、よろしくお願い致します。